



めがねミュージアムのショップは最新フレーム3,000本以上を取り揃える



### めがね産業を、暮らしの糧に。

福井にめがね産業が誕生したのは、1905(明治38)年のこと。現在の福井市麻生津地区の生野という村で、農閑期の副業として始まりました。礎を築いたのは、福井市に本社がある増永眼鏡株式会社の創業者・増永五左衛門です。

五左衛門は大阪からめがね職人を招き、村の人々に技術を学ばせると同時に教養を身につけさせ、独立を促しました。分業化を進めた福井市南部と鯖江市は一大産地に。めがね作りを始めて6年、博覧会に出品した福井のめがねは、優秀な賞を受賞することとなります。



左/増永五左衛門翁銅像  
上/生野地区にある増永五左衛門の顕彰碑

### めがねスポットで、めがねを身近に感じよう。

昭和50年代に入ると、チタンを使っためがね作りに着手。加工が難しいチタン研究に業界全体で取り組み、福井のめがねは世界中から高く評価される存在となりました。今や福井は「眼鏡フレーム日本一」の産地として、ゆるぎない地位を確立しています。

福井市～鯖江市には、めがねにまつわる場所が点在していて、観光スポットとしても人気です。鯖江市のめがねミュージアムには「めがね博物館」があり、映画「おしよりん」の撮影に貸し出されたかつてのめがね作りの道具が展示されており、間近で見学できます。



映画に登場する道具「車地」(しゃち)



めがねミュージアム  
福井県鯖江市新横江2-3-4  
☎0778-42-8311

### マチナカで、めがねモチーフを発見!



JR鯖江駅前のモニュメント  
階段にさりげなくめがね  
柵もめがね型  
福井鉄道浅水駅のめがねベンチ

## 福井ロケの思い出を 監督とキャストに、語っていただきました。

本作品の舞台である福井にはいまだに古くからある建造群や大自然があちこちに残されています。かつての庄屋には土間や厩、立ち上がる炭の煙で漆黒になった柱や梁がありました。そこには間違いなく過酷な環境下で懸命に生きた先人たちの息遣いが残っていました。今回の限られた予算の中で作品の出来を左右する重要な場所の一つが当時の眼鏡工場でした。ほぼ原寸に近い廃校になった建物を探し当てた時の興奮はいまだに忘れられません。ちょっと大きすぎますが運命的であり、宿命のでもありました。



児玉 宜久監督

福井ではたくさんの方々のご協力をいただき、撮影を無事に終えることができました。ロケで出していた福井の美味しい食べ物や、差し入れていただく羽二重餅も忘れられません。お家のロケセットは風情があって素敵でした。本当の家に帰ってきたというような感覚になるほど、落ち着く場所でした。鯖江のメガネやお米に包丁、陶器などもプレゼントしていただき、福井には様々な名産があることを知りました。撮影が休みの日には鯖江へメガネを作りに行ったり、福井県立恐竜博物館に行ったりしました。恐竜が好きなのでとても楽しく、幸せな時間でした。恐竜をモチーフにした食べ物や飲み物をレストランでいただきました。7月にリニューアルした博物館も楽しみだなと思っています。



北乃 きいさん

鯖江にある「白樺ホルモン」は、地元の方に「服に臭いがめっちゃつくからな～」と言われましたが、洗えば落ちるけどその臭いを落とすたくないくらい、このお店のホルモンの味が今でも蘇ります。日本酒「黒龍」は美味すぎて、大好きになりました!福井で頂いた日本酒をまだ大切にしているの、撮影時を思い出しながら少しずつ味わいたいと思います。僕はキャンプが好きで、撮影の休みには紹介してもらったキャンプショップ「NATURE TONES」へ行きました。すると、まさか僕が愛用しているギアが「NATURE TONES」さんのものと分かり、ご縁を感じました。それをきっかけに、僕の誕生日イベントで「シエラカップ」をコラボで作らせていただきました。本当に出会いに感謝です。



森崎 ウインさん

# オール福井ロケ! 映画「おしよりん」ロケ地MAP



メガネが、彼らの〈せかい〉を変えた。

# おしよりん

文部科学省選定(青年、家庭向き)

北乃きい 森崎ウイン  
駿河太郎 高橋愛 秋田沙梨 磯野貴理子 津田寛治 榎本孝明 東てる美 佐野史郎  
かたせ梨乃 小泉孝太郎

監督:児玉宜久 原作:藤岡陽子「おしよりん」(ホブラ社) 脚本:園之り香 児玉宜久 エンディング曲:MORISAKI WIN「Dear」(日本コロムビア)  
製作総指揮:斎藤忠志 プロデューサー:河合広美 ラインプロデューサー:堀川浩亮 撮影:伊藤正人 照明:森野隆典 録音:林昭一 監音:堀川浩夫 記録:日原美希子 編集:村上雅樹 美術:斎藤幸之助 装飾:鈴木高志  
衣裳:田中洋子 ヘアメイク:岡村佳子 助監督:宮崎剛 制作担当:相馬高 制作プロダクション:広業 トライフィルム 配給:KADOKAWA 製作:「おしよりん」製作委員会 ©2023 KADOKAWA JAPAN AIRLINES JR東日本グループサービス



日本の眼鏡の95%を生産する福井。ゼロから立ち上げた兄弟と、二人を支え続けた妻の、情熱と愛の物語

## 2023.10.20(金)福井先行公開! 11.3(金・祝)全国公開!

発行 福井市おもてなし観光推進課

## 映画「おしよりん」

明治時代の麻生津村(福井市)を舞台に、眼鏡産業の礎を築いた増永五左衛門と妻・むめ、弟・幸八が、地場産業としてめがね作りを定着させようと奮闘する姿を描いた作品。原作は藤岡陽子「おしよりん」(ポプラ社)。



# 「おしよりん」のロケ地をめぐってみよう!

詳しくは  
WEBサイトをチェック!



映画「おしよりん」は、全てのシーンを福井県内で撮影する「**オール福井ロケ**」で完成しました。ロケ地とめがねにまつわるスポットをめぐり、映画の世界観を体感してください。



大庄屋の家

### 1 福井市おさごえ民家園

江戸時代に建てられた古民家5棟、板倉1棟を移築・復原した古民家園。撮影は旧城地家住宅で行われ、五左衛門とむめが結納を交わすシーン等で登場します。

福井県福井市月見5-4-48  
☎0776・34・3794



### 4 旧岸名家

三国独特の建築様式「かくら建て」の町家で、一般公開されています。1階に帳場や台所があり、2階には三国ゆかりの文化人の資料を展示。1階の座敷で、めがね問屋「明昌堂」のシーンが撮影されました。

福井県坂井市  
三国町北本町4-6-54  
☎0776・82・0947



三国湊の材木商



懐かしの木造校舎



### 6 萩野小学校笈松分校跡

山腹に佇む木造二階建ての校舎の周りには日本の原風景が広がります。映画では、校舎の1階が増永眼鏡の工場として使われました。

福井県丹生郡越前町笈松24-37  
※校舎内の見学は不可



### 7 旧谷口家

江戸末期に建てられた、角屋造りの農家建築。五左衛門とむめが暮らす家として登場し、2人の祝言や、家族の生活など様々なシーンが撮影されました。

福井県越前市余川町55-1  
万葉の里味真野苑内  
☎0778・27・2204(万葉館)



### 2 五太子の滝

国見岳の中腹に位置する落差20mの迫力ある滝。駐車場や遊歩道が整備され、散策にピッタリ。ここでは若いめがね職人の八郎が自信を無くし工場を飛び出したシーンを撮影しました。

福井県福井市五太子町

### 5 吉崎古道

蓮如上人が浄土真宗の布教の拠点とした吉崎と、あわら市細呂木をつなぐ旧街道です。大土呂駅と増永家をつなぐ道のシーンを撮影しました。

福井県あわら市細呂木



### 3 旧森田銀行本店

三国湊で廻船業を生業としていた森田家が創業した銀行。天井や柱、壁にあしらわれた漆喰模様が豪華。第九十一銀行や、内国共産品博覧会の審査会場、カフェのシーンで登場。

福井県坂井市三国町南本町3-3-26  
☎0776・82・0299

レトロモダンを感じて



## ロケ地のおいしいお土産

ロケ中に各市町がキャストに差し入れた名物を紹介。



福井市

みそ汁(米五)  
山うにあられ(リカーワールド華)  
チョコラスク(横井チョコレート)  
おもてな水(福井市企業局)

曹洞宗大本山永平寺御用達のみそ屋「米五」のみそ汁や、福井市自慢のおいしい水「おもてな水」など、福井市からの差し入れはバラエティ豊か。



坂井市

酒まんじゅう(にしさか)

越前三国が北前船で栄えていた頃から伝わる香り高い郷土銘菓です。ほのかな甘酒の風味と、焼印が「にしさか」の証。



鯖江市

大人のレモンケーキ(弁慶堂)

レモンの酸味や香り、バターのコクが楽しめるレモンケーキ。レモンピールの食感と苦みがアクセントになっています。

### 8 雪原

豪雪地帯の勝山市は、冬になると一面の雪景色に。ここでオープニングとエンディングのシーンを撮影しました。

福井県勝山市野向町龍谷



福井県の南に位置する嶺南エリアでは気比の松原(敦賀市)、熊川宿(若狭町)、奥田縄の滝(小浜市)、口田縄山道(小浜市)でロケを行いました。

越前町

生どら焼き(阿んま屋)

生クリームが入った名物「生どらやき」。あんこ、チョコ、メープルナッツなど約15種類もあり、子どもにも人気。

